

大谷學報

第五十九卷 第三号

昭和五十四年十一月三十日発行

「望郷」の社会心理……………高橋 憲昭 (1)	八雲とイエイツ……………内藤 史朗 (12)	―詩「青銅の頭像」をめぐって―	衆生観への一視点……………鍵主 良敬 (24)	国家と宗教……………訓覇 曄雄 (36)	―ヘーゲルにおけるその連関の諸相―	墓上植樹と真宗……………佐々木孝正 (50)	春季公開講演会要旨	明恵上人の夢について……………京都大学教授 河合 隼雄 (63)	過 疎 考……………大谷大学教授 池田 義祐 (65)	彙 報……………(70)
-------------------------	------------------------	-----------------	-------------------------	----------------------	-------------------	------------------------	-----------	----------------------------------	-----------------------------	--------------

大 谷 大 学

大 谷 学 会

大谷学報 第五十九卷 第一号

親鸞教学と般舟三昧思想(上)……………幡谷 明

M・ビュートル詩

「炎の中」について……………岩見 至

きたえる……………山田 知子

中・後期のシェリング……………堀尾 孟

梵文断簡 *Nidānasamyukta* ……………伴戸 昇空

昭和五十三年度(修士)卒業論文題目一覧

大谷学報 第五十九卷 第二号

集合行動論序説……………池田 義祐

『歎異抄』構成論……………細川 行信

最澄の思想形成についての一視点……………白土 わか

雪窓宗崔伝の史料の検討……………大桑 斉

平太郎伝の展開……………沙加戸 弘

——浄瑠璃を中心として——

親鸞教学と般舟三昧思想(下)……………幡谷 明

昭和五十三年度特別(研究生)研究発表要旨

THE OTANI GAKUHO

(THE JOURNAL OF
BUDDHIST STUDIES AND HUMANITIES)

CONTENTS

Articles :

Socio-psychological Analysis of Homesickness ...*Kenshō Takahashi* (1)

Hearn and Yeats*Shirō Naitō* (12)

—On the Poem “A Bronze Head” by Yeats—

An Observation on the Meaning of
“Sentient Beings” in *Mahāyāna* Thought...*Ryōkei Kaginushi* (24)

Some Aspects of the Relationship between
State and Religion in Hegel's Thought.....*Teruo Kurube* (36)

The Custom of Planting Trees by
the Grave-side in Shin Buddhism*Kōshō Sasaki* (50)

Resumés : Otani Society Public

Lectures given in Spring, 1979..... (63)

Miscellaneous

PUBLISHED FOR THE OTANI SOCIETY
OTANI UNIVERSITY
KYOTO, JAPAN

大谷学会規程

第一条 大谷大学に大谷学会を置く。

第二条 本会は真宗学・仏教学・哲学・史学・文学並びにこれに関連する學術の研究と、その発表をおこなうことを目的とする。

第三条 本会は前条の目的を達成するため、左の事業をおこなう。

一、季刊「大谷学報」の発行

二、「大谷大学研究年報」の発行

三、研究会及び公開講演会の開催

四、その他必要な事業

第四条 1、本会は大谷大学大学院・学部並びに短期大学部のすべての教育職員及び学生をもって会員とする。

2、前項のほか、本会の趣旨に賛同し、役員会において承認されたものは、会員となることができる。

第五条 本会に左の役員を置く。

一、会長

二、委員

第六条 会長には大谷大学学長が当り、

会務を統理する。

第七条 1、委員は十名とし、教授会において互選する。

2、委員は企画・編集・出版等の会務を掌理する。

3、委員の任期は二年とする。但し再任をさまたげない。

第八条 会員は本会の出版物にその研究を発表し、「大谷学報」並びに「大谷大学研究年報」の配布を受け、本会主催の会合に出席することができる。

第九条 会員の会費は年額金壹千五百円とする。

第一〇条 1、本会の経費は会費をもってこれに当てる。

2、本会の必要経費については、助成金を受けることができる。

第十一条 本会の事務は、教務課の所管とする。

第十二条 この規程の改正には、教授会の議を経なければならない。

附則 1、この規程は昭和四十八年

四月一日から施行する。

2、昭和三十七年四月一日施行の「大谷学会会則」はこれを廃止する。

大谷学会役員

委員 岩見 至 大屋 憲一

柏原 祐泉 佐々木教悟

高橋 憲昭 名畑 崇

広瀬 英一 細川 行信

箕浦 恵了 山本 唯一

昭和五十四年十一月三十日発行

編集兼 大谷学会

発行者 廣 瀬 杲

印刷者 西村 七兵衛

京都市北区小山上総町

大谷大学内

発行所 大谷学会

振替 京都一八三九三番
電話(〇七五)四三三三三三
郵便番号 六〇〇三